

IPPの歴史的な事業の紹介（2024年版）

「包装界・10大ニュース」

の事業活動についてご紹介します。

日本包装管理士会

IPPの事業活動

[包装界・10大ニュース] について

日本包装管理士会選定 「2023年包装界・10大ニュース」

COVID-19が5類に移行してコロナ禍から解放され、観光需要の回復をはじめとして経済活動が活発になりました。その一方で、円安は継続し、輸入物価の上昇でデフレからインフレへの歴史的な転換期と言われています。包装業界へもAI技術や環境負荷への対応が広く浸透し、話題になりました。

1. G7 広島サミットで世界にコミット “ボトル to ボトル”リサイクルキャンペーン

2023年のG7広島サミットの期間中に実施された「ボトル to ボトル」リサイクルの啓発キャンペーンは、飲料大手2社の異例な共同広告として報道各社は伝えた。このキャンペーンは水平リサイクルの環境への取り組みを、G7サミットの機会を逃さず日本国内だけでなく世界にコミットメントする役割を果たした。

2. 生成AI、分野横断的な変革と革新の波

2022年末に誕生した対話型AIサービスは、2023年においては多岐にわたる分野で革新的な変化をもたらした。社内の文書作成からメール作業の効率化、開発時のコミュニケーションの活性化など、様々な領域で大いなる貢献があった。包装分野ではM社が対話型デザイン生成AIを導入し、購買欲を刺激するデザイン開発に成功した。また、外装用段ボール破損の判定基準共有化にもAIが活用され、飲料業界・流通業界での統一のアプローチ促進が見られた。

3. 段ボール印刷用インキが18色に集約

現在段ボール製造時に使用しているインキは、全国段ボール工業組合連合会、全日本紙器段ボール箱工業組合連合会、および印刷インキ工業会の3組織にて定めた標準色（18色）と補整色（32色）で運用され、一部の商品に限り特練色が使用されている。2024年4月1日より段ボール製造時に使用するインキを標準色18色に集約することで、廃棄ロスインキの低減や二酸化炭素排出量の削減など環境負荷に対する効果が期待されている。

4. PETボトル直接印刷のリサイクル対応技術を開発

PETボトルリサイクル推進協議会発行のガイドラインでは、「ボトル本体への直接印刷は行わない」とされている。K社はF社の剥離インキと独自技術を駆使し、リサイクル時の品質低下の問題を解決した。ペットボトルへ直接デジタル印刷することで、シュリンクラベルの剥がし作業が不要となり、消費者の手間が大幅に削減される。また、インキの低減による環境負荷の低減も期待されている。

了し、今後は自社に留めず技術を広く展開する方針を発表した。

5. 循環型社会への一歩 詰め替え用パックのリサイクル推進と企業協力

日用品メーカーが詰め替え用フィルム容器のリサイクル推進を図り、企業間協力を進めている。フィルム容器が異なる素材からなるためリサイクルが難しい問題に対処し、利用可能なリサイクル材料・容器を設計した。また他の日用品メーカーに容器の素材情報の共有を呼びかけ、消費者・行政・流通との協力を通じて分別回収の仕組みを構築中である。業界ライバルが協力して課題解決を目指すこの取り組みは、循環型社会の構築に向けた重要な一歩といえる。

6. 包装・容器出荷額、14年ぶりの6兆円台回復

(公社)日本包装技術協会は22年の包装産業出荷統計を発表した。包装・容器出荷金額は前年比6.9%増の6兆788億円で08年以来14年ぶりに6兆円台に回復した。一方、包装・容器出荷数量は0.2%減の1,921万トンだった。出荷数量は前年割れしたが、原材料・エネルギー価格の高騰、急速な円安などが大きく影響し、前年より約3,900億円の大増量になっている。

7. 使用済みコピー用紙で高性能緩衝材

S社の開発した紙系緩衝材は、社内の古紙回収システムで収集した使用済みコピー用紙を原料とし、独自技術により水をほとんど使わずに繊維化を行い、緩衝材として最適に成形することで衝撃を吸収する効果を確保した。EPS緩衝材と同等の衝撃吸収性を持ち、廃棄時は段ボールと共に全体を古紙としてリサイクルすることが可能で、「2023日本グッドパッケージングコンテスト」において、ジャパンスター賞を受賞した。

8. 医薬品業界においても、環境負荷低減への動きが強まる

ある大手医薬品メーカーでPTPシートの回収プログラムが始動した。他企業との連携の下、横浜市内で地産地消の回収活動が行われ、環境負荷低減に貢献している。



1 事業の目的

日本包装管理士会は、包装業界における価値ある情報を提供する場として活動しています。当会は、業界の最新トレンドやイノベーションに焦点を当て、会員の皆様が業界の現状を把握し、将来に向けた準備や過去の振り返りを行えるようサポートしています。

2 包装界・10大ニュースの意義

その一環として、毎年発表される「包装界・10大ニュース」は、業界において特に注目すべき出来事を厳選し発表しています。この発表は、会員の皆様にとって貴重な参考資料であり、業界全体にも大きな影響を与えるものとなっています。

3 事業活動の時間軸

「包装界・10大ニュース」は、1968年から半世紀以上にわたり、毎年発表を続けています。発表内容は、翌年の元旦に当会のホームページで公開するとともに、1月発刊の『包装技術』や『包装タイムス』にも掲載されています。また、TOKYOパックの会場でも公開しております。

包装界・10大ニュースの選定プロセス

1

選定委員会の設立

まず、「包装界・10大ニュースの選定委員会」を設定します。委員会は、会員からの公募と本部役員で構成されます。参加希望者を募り、委員として活動します。

2

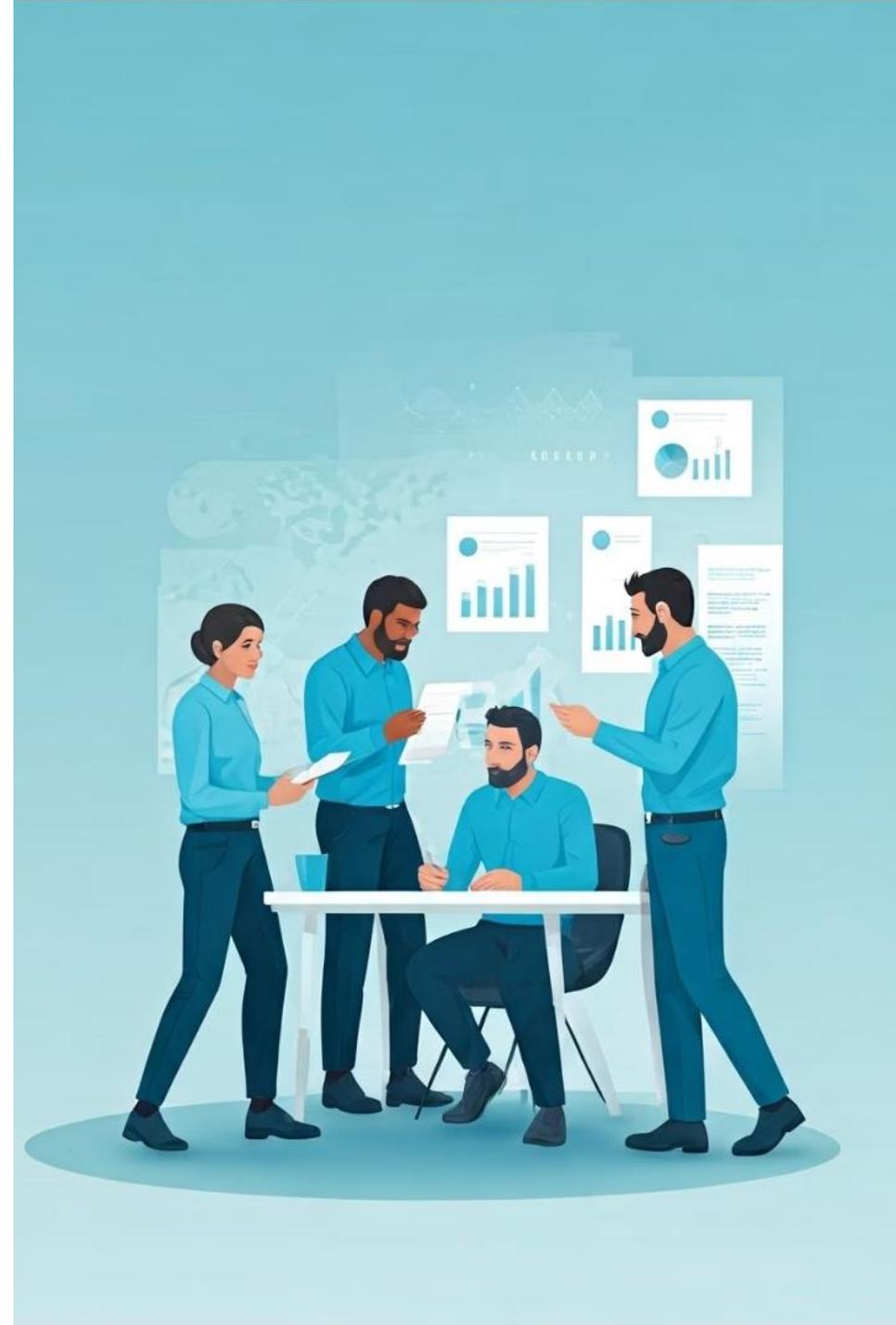
ニュースの募集

次に、全会員に向けて、その年に包装業界に影響を与えたニュースの募集をメールで行います。会員から寄せられたニュースは、委員会に集められます。

3

選定・評価・記事作成

選定委員が、「包装業界に影響を与えたニュース」を評価し、点数をつけて順位を決定します。選ばれたニュースは委員が分担して記事を作成し、著作権に配慮しながら公開準備を進めます。





昨年（2023年）の選定実績

2023年の選考では、

G7広島サミットにおける「ボトル to ボトル」リサイクルの推進が最も高く評価されました。この取り組みは、通常は競合関係にある複数の大手企業が連携し、リサイクル技術を活用した持続可能なボトル再生を実現しようとするもので、業界全体にとって非常に革新的な動きです。特に、環境問題に対する世界的な関心が高まる中で、こうした企業の協働が業界の枠を超えて評価されました。この事例は、業界内での協力体制が持続可能な社会の実現に向けた新しい道を開くことを象徴しています。



昨年（2023年）の選定実績

次に高く評価されたのは、

ChatGPTを活用した包装資材の新商品開発です。AI技術を活用することで、企画・開発から販売促進までの各プロセスが大幅に効率化され、特にパーソナライズされた顧客対応や、膨大な情報処理能力によるデータ分析の精度向上が業界に革新をもたらしました。こうしたAIの導入は、従来の業務のデジタル化を加速させるだけでなく、これまで手の届かなかった新たな市場機会を生み出す原動力となっており、包装業界における技術革新の象徴的な事例として注目されました。



昨年（2023年）の選定実績

選定委員会は、会員から寄せられたこれらのニュースに対し、包装業界全体に及ぼす影響度や革新性を基準に、慎重な審査を行いました。その結果、各ニュースに点数評価を行い、ランキングを決定しました。選考プロセスでは、公平性と透明性を重視し、業界の発展に寄与する重要な情報を提供するための厳格な基準が適用されました。

このように、選定されたニュースは、単なる報道に留まらず、業界全体の未来を見据えた方向性を示すものとなっています。

包装界・10大ニュースの振り返り

2023年の包装界・10大ニュースは、会員の皆様を対象に、リモート形式で振り返りを行いました。この振り返りは、**IPPラウンジ**という勉強会の一環として、2022年度と2023年度の過去2年間に実施してきました。

IPPラウンジでは、包装業界に関する最新情報や業界の発展に寄与するニュースを共有し、会員の皆様の知識を深める機会を提供しています。

2024年の包装界・10大ニュースは、**2025年1月にも同様の振り返りを予定**しています。

参加者は、10大ニュースの選定プロセスや各ニュースの背景にある重要な要素について深く把握し、業界全体の動向を共有しています。この取り組みは、会員同士の知見を高め合う場として好評を博しており、包装業界のさらなる発展を目指すための重要なイベントとなっています。



IPP ラウンジ 参加者のコメント

- 10大ニュースが発表になって、具体的にどのことを言っているのかがわからずモヤモヤしていた。今日の話でスッキリした。個々のニュース記事は見ているが、全体を俯瞰してあるため傾向がつかめ頭の整理になった。
- 見てるニュースでも知らない情報もあってメモさせてもらった。QRコードも活用した。
- 法改正とか今年起こることは、各企業も気にしている。これも良かった。
- 各社、環境対応について進んでる会社はすごく進んでいるという印象を持った。
- ニュースのおさらいができた。
- 自分は10大ニュース選定委員を務めさせてもらっているが、本日のプレゼンを見て自己反省した。自分の不勉強さとニュースのバックグラウンド認識がないまま、選定していたことを大いに反省した。

フィードバックの重要性

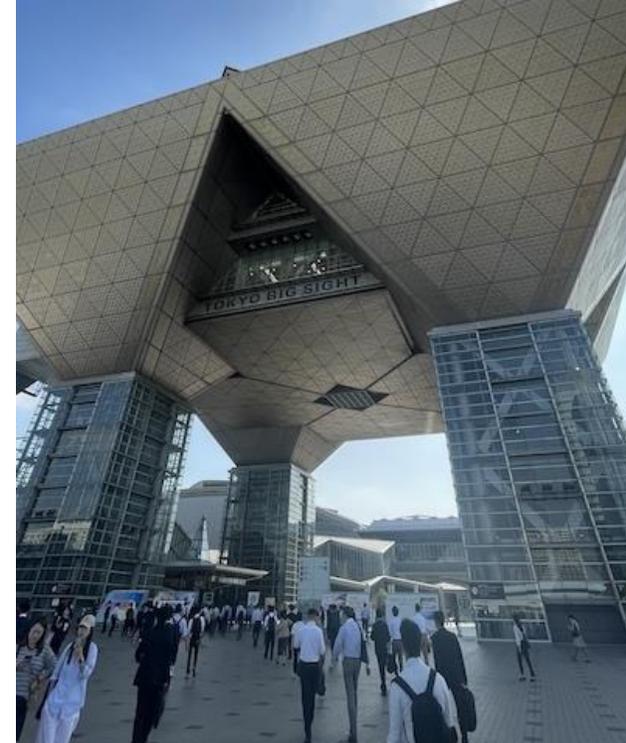
「包装界・10大ニュース」は、会員の皆様のフィードバックとご参加によって成り立っています。会員のご意見やご提案が、今後のニュース選定や発表に反映されることで、未来の包装業界の一助となり、同時にその歴史を刻むこととなります。



PACKAGING IN K PACKAGING

TOKYO PACK 2024

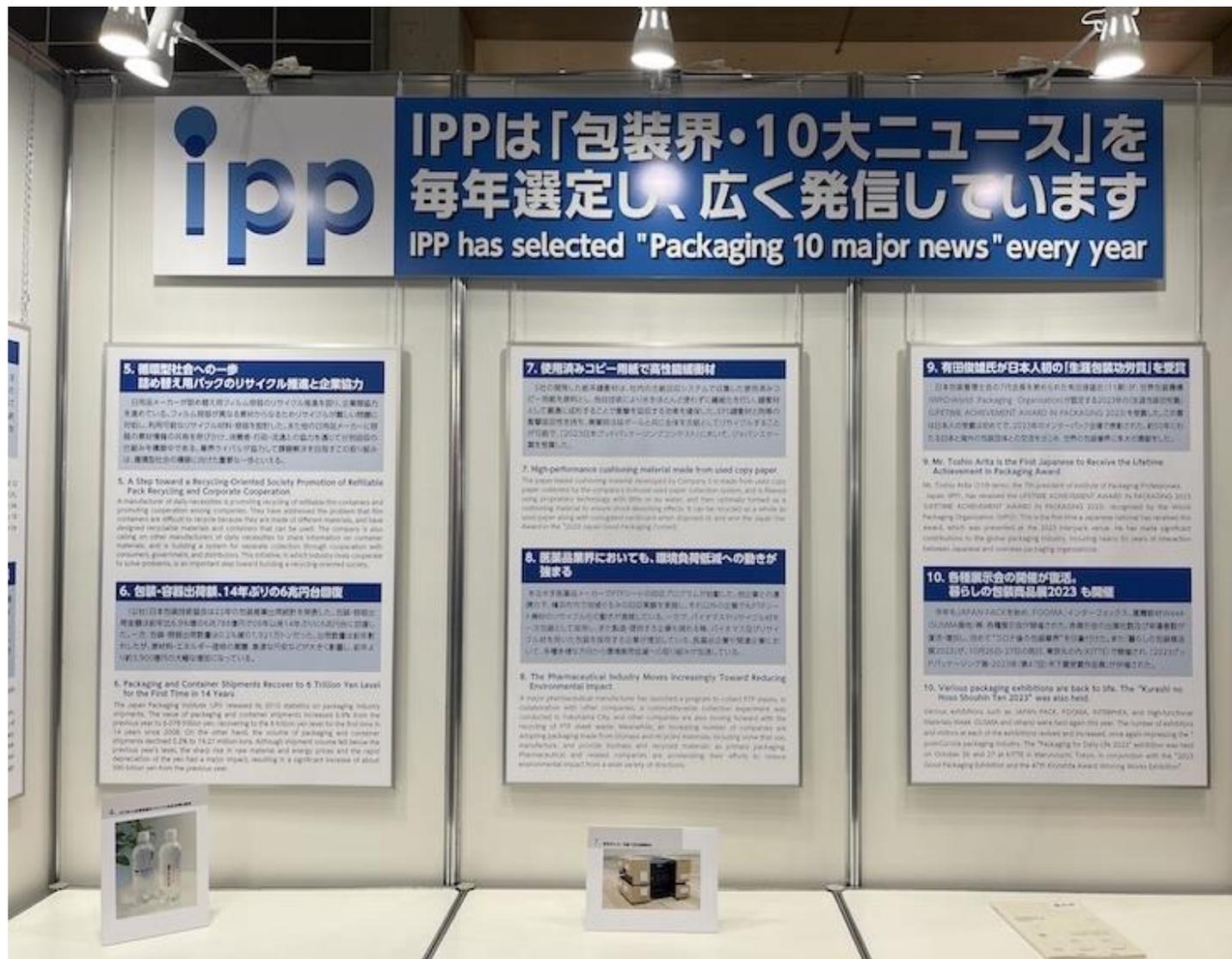
先月(10月23日から25日)、東京ビッグサイトにおいてTOKYO PACK 2024が開催され、日本包装管理士会も出展をさせていただきました。



TOKYO PACK 2024

展示ブース

包装界・10大ニュース
の紹介



TOKYO PACK 2024

テクニカルセミナー





TOKYO PACK 2024

日本包装管理士会からは4人の講師が
テクニカルセミナーに登壇しました。



鈴木雅彦氏

包装で改善する
2024年問題



古井真夫氏

環境問題対応として
の包装設計のあり方



山田孝志氏

医薬品のサプライ
チェーンマネジメン
トについて



井上伸也氏

段ボール包装の設計
と最新動向



ぜひ活動にご参加ください。

最後に、皆様にご覧がございます。

日本包装管理士会では、多岐にわたる事業を展開しておりますが今回ご紹介したものはその一部にすぎません。本日のセミナー（59期包装管理士歓迎セミナー）を受講された皆様は、当会の仮会員資格を2025年4月まで保持しておりますので、ぜひこの機会に活動へご参加いただければ幸いです。